

## 0690 | 工芸 II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田中克明教授、落合勉講師、河村要講師、野田昇一郎講師、藤田寿伸講師

## 授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作することである。そこでは、材料の特性を生かし、合理的に用途を満たしつつ、生活に潤いをもたらす造形の美しさが求められてきた。今日では、手工業的に制作されてきた用具の大半は機械工業的生産方法に代わってしまった感じすらある。新しい材料が開発され、工業的な生産技術による量的規模が拡大しても、人と用具との関係は変わることなく、その造形的な美しさに生活の潤いを求めている。この科目では、日本の伝統的な自然素材を使用し、工芸の手法を活かしながら、用具（照明器具）と現代の生活の関わりを考察して新たなデザイン提案と制作をする。なお、教職「工芸」の学習に求められるプロダクト制作とデザイン表現に対応している。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

「照明器具（スタンドライト）のデザイン」

面接授業で、日本の伝統的素材である和紙を主材料に、生活空間の照明器具（スタンドライト）をデザインし制作する。照明は、その使われる場や用途（玄関や居間といった）によって様々な性能や効果が求められる。その照明が使用される状況を良く想像しながらデザインし、和紙の特性、風合いを生かした造形性と共に、あかりを点灯した時の光の効果も含めた創造性ある照明器具を制作する。その際には少量でも良いが、生産性を考慮に入れたプロダクトデザインの考えで実施する。

## ○通信授業課題

「照明器具（スタンドライト）のデザイン報告」

面接授業で制作した照明器具を講評にしたがって改良（リデザイン）し、デザインの主旨や特徴、図面、写真などを内容とするデザインの説明書を提出する。プロダクト制作に求められるのは、デザインの主要な要件（目的性、機能性、生産性、流通、造形様式など）への見識であり、またデザインの表現（製図やレンダリングなど）技術の習得でもある。ここではその基本的な技術に触れつつ各自のデザインの全体像を構築する。

\* 課題については学習指導書『工芸 I・II 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画



面接授業で具体的な現物の制作を行い、続いて通信授業でそのデザインを総括するという順序で学習する。尚、面接授業の受講前には予習課題があるので、学習指導書・工芸 II の面接授業前予習課題の項を予習する。

## [予習課題]

予習課題では、照明器具・スタンドライトに関する予備調査表の作成と、そのアイデアのラフスケッチを 5 点作成し、面接授業初日に持参する。

## [面接授業]

面接授業では、前提講義で照明の基礎的知識と和紙について講義があり、続いてスケッチによる照明器具の構想、現物の制作を展開し講評に至る。和紙や器具などの主要な材料は大学が用意する。

## [通信授業]

面接授業における講評をふまえ、自宅でデザインの改良を試み、その結果を図面や写真を添付したデザインの説明書で報告する。

## 成績評価の方法

面接授業の評価と通信授業の評価の平均を原則とする。

---

|            |   |
|------------|---|
| 履修条件及び履修年次 | [履修年次] 1～4年次<br>[履修条件] なし<br>[備考] 履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。<br>工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、「工芸Ⅰ・Ⅱ」及び、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱ等の履修を勧める。<br>本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。 |
|------------|---|

---

|     |   |
|-----|---|
| 教材等 | 教科書：横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）<br>学習指導書：『工芸Ⅰ・Ⅱ 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年） |
|-----|---|

---

|     |  |
|-----|--|
| その他 | 通信授業課題は、面接授業受講後2ヶ月を目途に提出する。<br>参考資料：横溝健志監修、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年） |
|-----|--|